

## CORABOSS#1 開催概要

---

### CORABOSS#1 (研究会)

当番世話人：勝谷将史(西宮協立リハビリテーション病院)

共催：グラクソスミスクライン株式会社

日時：2012年9月9日(日曜日)14:00-17:00

所：〒530-0015 大阪市北区中崎西 2-4-12 16F 梅田センタービルH会議室

演目：

14:05-14:45 基調講演

『痙縮に対するボツリヌス療法』

【座長】偕行会リハビリテーション病院院長

田丸司先生

【演者】滋賀県立成人病センターリハビリテーション科部長

中馬孝容先生

14:45-15:35 特別講演

『地域連携の中での装具とボツリヌス療法』

【座長】兵庫医科大学リハビリテーション医学教室主任教授

道免和久先生

【演者】昭和大学リハビリテーション科准教授

川手信行先生

15:40-17:00 シンポジウム

「生活期脳卒中患者の現状とボツリヌス療法」

【座長】西宮協立リハビリテーション病院

勝谷将史先生

【演者】沖井クリニック

沖井明先生

吉田義肢装具研究所

久米亮一先生

すう整形外科

本田貴信先生

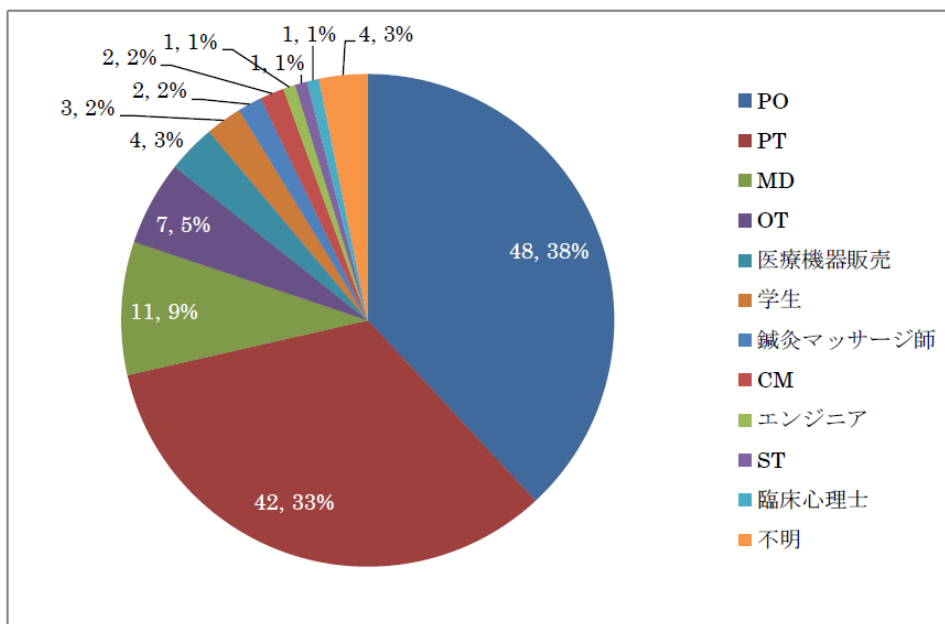
---

## 結果報告

CORABOSS#1 (研究会) 申込 134 名 参加 158 名

申込者が所属する団体の数 77

CORABOSS#1 (研究会) 申込者の内訳 下図のとおり

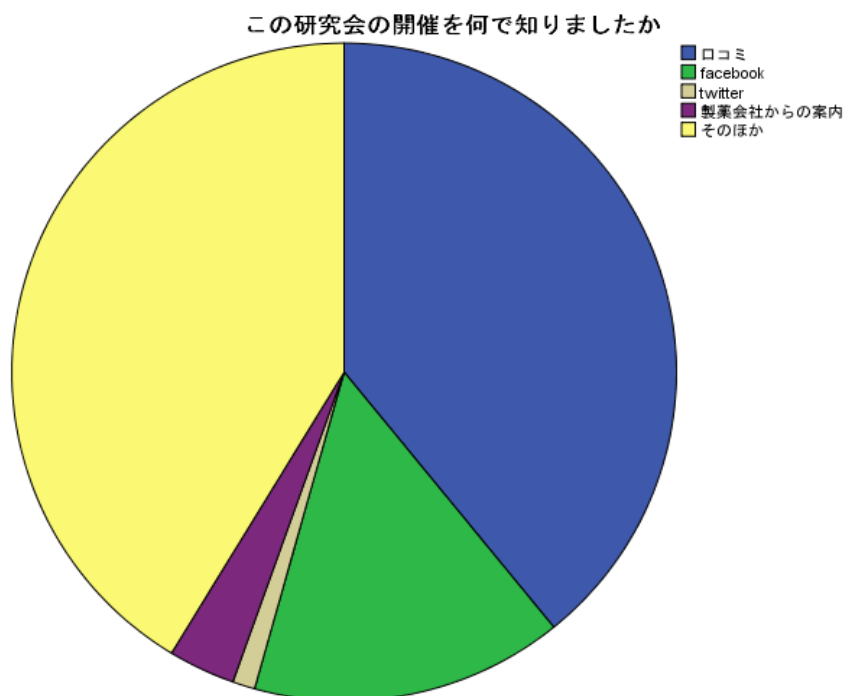


CORABOSS#1 (研究会) アンケート配布 158 回収 93 回収率 58.9%

質問項目の一覧 (次ページ以下に結果を詳述する。)

質問番号	質問項目	回答(選択肢)
1	この研究会の開催を何で知りましたか	1:口コミ、2:facebook、3:twitter、4:企業からの案内、5:そのほか(1eに記載)
2a	内容に関してご意見ご感想をお聞かせください	1:非常に満足、2:満足、3:普通、4:不満
4	今後、研究会として皆様が求める形式はどのようなものですか	1:ワークショップ形式、2:ハンズオン形式、3:講義形式、4:その他(4dに記載)
5	開催間隔は年に何回程度が適当でしょうか	1:年1回、2:年2回、3:年3回
2b	内容に関してご意見ご感想をお聞かせください	自由記載
3	今後この研究会で取り上げる内容・論点はどのようなものを希望しますか	自由記載
6	開催地域に関してご希望があれば記載してください。	自由記載
1e		自由記載
4d		自由記載

Q1：この研究会の開催を何で知りましたか



Q1e: そのほかの内容

JAP0 (札幌と思われる) : 7

会社からの案内 : 3

パシフィックサプライのニュース : 2

関西リハビリテーション病院での装具勉強会 : 1

メーリングリスト : 1

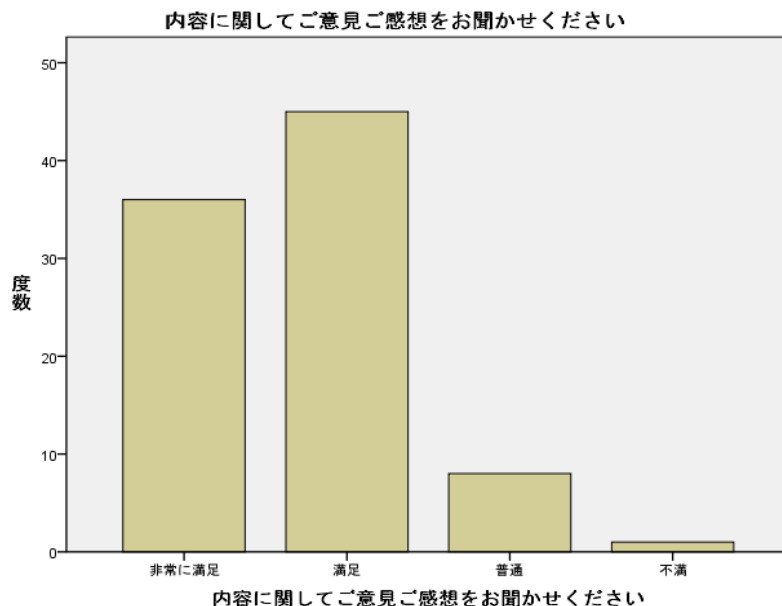
P0 からの情報で : 1

久米さん : 1

同僚医師 : 1

HP より : 1

## Q2a : 内容に関してご意見ご感想をお聞かせください



## 2-b. 内容に関してご意見ご感想をお聞かせください（自由回答欄）

1. 今回、様々な職種の方々の意見をうかがうことができよかったです。大変勉強になったと思います。ありがとうございました。
2. 治療現場での問題点・対応例・効果について知ることができ、現場で実際に必要なものを作るうえで大変参考になった。
3. 参加者の多くが未経験者なことにびっくりした。
4. いろいろな職種の方々の話が聞けて大変勉強になりました。次回も参加させていただきたいと思います。
5. ありがとうございました。
6. ボツリヌス療法の成果を見せるには歩行再建をするリハビリテーションが最重要と思われるが、外来リハ・訪問リハが足りない。どのようにアピールしていくか。
7. 熱くなりました。
8. 言語聴覚士も参加しやすいような内容があってもよいと思いました。
9. BOTOX のことは不勉強でしたが、今回の研究会で大変理解が深まりました。
10. ボツリヌス療法に対して理学療法士としてどう対応するのかヒントが得られた。
11. ボツリヌスに対して学ぶことができ、日々の仕事に役立つことが多かったです。
12. 非常に興味深い内容で、まさに在宅で直面している問題に関する内容だったので非常に満足しています。
13. 資料があれば…。

14. ボトックスに対してよく知ることができた。
15. 会場のスライドが後ろから見にくかったです。
16. もう少し基礎を教えていただきたかった。
17. ボツリヌス注射と装具・運動を通して一緒にアプローチするための具体的プロセスが聴講出来、大変良かったです。
18. 基調講演は初めてボトックスについて学ぼうと思い越さしていただいたため、少し難しく理解できないところがありました。
19. ディスカッションの時間を一時間ほしいです。
20. 臨床上、すでにボツリヌスは利用されているので現状やその効果に関しては経験している。より具体的な治療効果や具体的技術に関して知りたい。
21. 一日あっても良い
22. 自分たちより先に進んだ取り組みをされているお話をとても近い距離でお聞きできてよかったです、とても参考になりました。次回も参加させていただきたいと思いました。
23. BTX 治療の本当のところがよく理解できた。
24. 新しい治療を行っていく中で、今までのように対処療法的な動きでよいのか、疑問である。中馬先生の話の中にあつたように現在の状態になった原因があるはずですから、それを除かなければまた同じ状態になると感じます。反張膝になったのなら、ひざや股関節のリハが足りないのではないかと感じます。それを改善しない限り、同じことの繰り返しになるのではないかと思います。
25. 多職種の地域連携と装具療法に対する危険を聞いて貴重な時間でした。
26. 大変勉強になりました。
27. ボツリヌス療法の正しい知識・運動療法の必要が感じることができました。
28. リハビリテーションについてももう少し内容がほしかったです。また、パワーポイントなどの資料もほしかったです。
29. 大変勉強になりました。地域連携の大切さを感じました。
30. 後ろの席だったので画面の下半分は全く見えず、早送り過ぎてほとんど読めませんでした。プリントアウトされた資料を配るなど、もう少し工夫してほしかったです。動作の動画とかも見たかったが見えなくて残念でした。動画が画面を情報に表示してほしかったです。肝心の足元が見えなかったです。
31. Dr., PO, PT の各発表が良かった。生活期に関わるものとして共有できる面が多く、考えさせられることが多々見られました。
32. それぞれの職種目から見た痙縮への取り組み、連携の大切さを感じた。
33. 実際の業務で困っている内容でしたので、とても興味深く聞かせていただきました。他職種の先生方の、それぞれの切り口のお話し、とても貴重でした。
34. 装具はポータブルな環境調整という言葉が印象に残った。

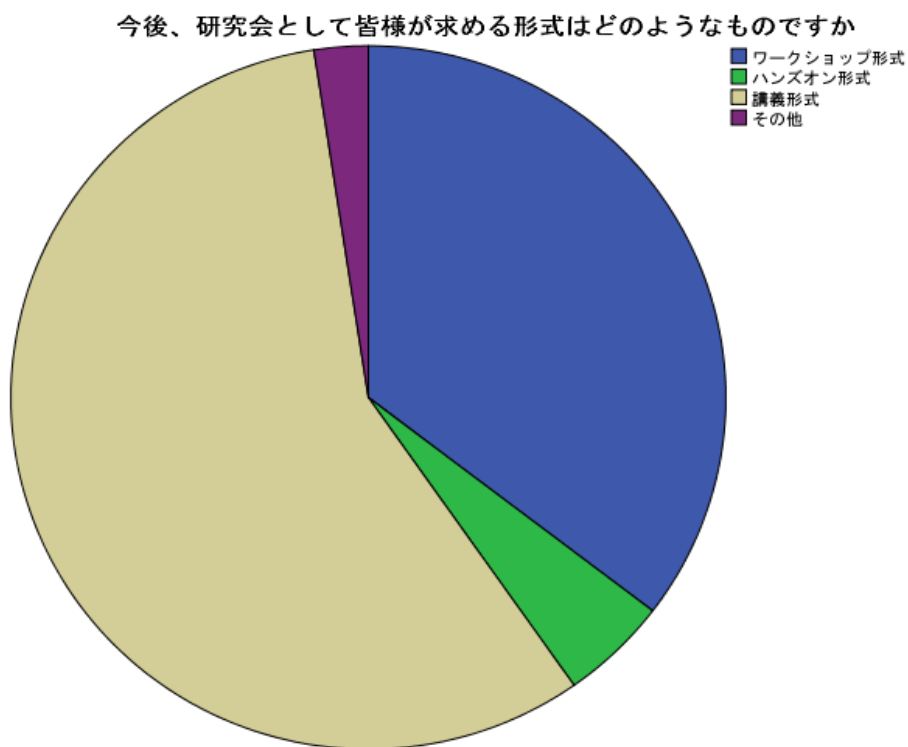
3. 今後、研究会として皆様が求める形式はどのようなものですか（自由回答欄）

1. 個々の症例よりもシステムのなこと、連携の話をボリュームを話してほしかった。
2. Dr. PO などセラピストに求めるものは何か。
3. 在宅でのボツリヌス療法を紹介するにあたっての具体例
4. ボツリヌス療法の評価方法、有効なりハビリテーション手法について
5. 生活期・維持期の医療から離れた患者さんの follow をどうするか、体力を確保し、活動性を保ちながら在宅に帰ってもらえるのでは？
6. 具体的に今後どういう活動をしていくか、グループディスカッションができれば良いと思います。
7. 在宅支援について取り上げてほしい。
8. このままずっと生活期の患者さんをどう救っていくのかというテーマでいいと思う。
9. 機能代償運動は何を求めるのか？
10. ボトックス療法を広げるにあたって何がハードルになっているのか問題提起する段階か？患者の（歩行できる期間）生涯を定期的に見ていくのはだれか？
11. ボトックス施注後、作り直す装具は調整可能なものが良いのではないかと？BTX は可逆性なので。
12. 一生 BTX は続くのか、卒業の仕方。
13. 装具作成のタイミング等をもっと詳しく知りたい。BTX 施注して 1 か月？BTX 終了時？「BTX なし」の地域に戻るなら BTX 終了時のほうが良いのかも。
14. 輪状咽頭筋に対する治療（関西に対応ができる病院があるのかも含めて）
15. 経年的変化（長期的）、BOTOX の効果がどこまで続くのか。BOTOX+装具+運動療法の組み合わせ。BOTOX+neuro rehabilitation. 治療の対象は筋ですが、脳の活動も変化するのではないかと思います。
16. 症例報告が増えていけば良いと思います。
17. 生活期（在宅）患者のフォロー⇒地域連携
18. いろんな職種の人が考えるボトックスへの考えを聞かせていただきたいです。今回も非常に良い内容だったので、同様の感じがあります。
19. 症例発表・検討
20. 次のステップに行ける人といけない人はどんな問題がある？
21. 下肢装具についてよく知ることができたが、上肢装具はどのような状況なのかが知りたい。
22. より具体的な BOTOX⇒訓練方法⇒装具の症例を取り上げてほしい（成功例・失敗例など）。

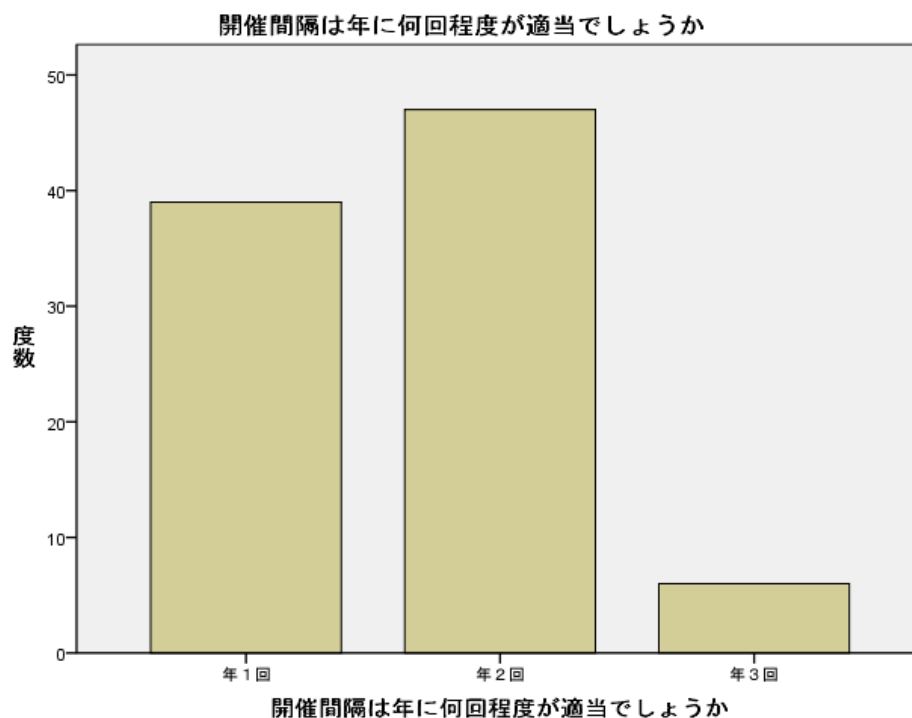
23. この研究会が多施設での大規模な研究になることを期待します、そのような臨床・研究につながる内容を希望します。
24. ボトックスについての基本的なこと「副作用・効果 etc.」
25. チーム連携。Dr., PT, P0 それぞれの立場を明確にしてガイドラインを作ってほしいです。
26. 痙縮を在宅においてあげてしまうのは回復期の訓練の中で PT の認識の問題か？P0 の在宅への帰結予測が乏しいのか、チームリハにおける認識が大きいのか？PT において関節を動かすことの重要性、P0 としての機能の抵抗を与えることか？
27. BTX 施注後のリハビリをする人の顔が見えなくて不安だと実に共感します。装具療法の考え方のある程度の合意も必要と思われました。連携で困ったことあるあるがあったらおもしろそうです。
28. 症例も増えてくると思われるので、装具処方に至るまでの症例報告であったり、在宅で現在活躍されている P0 をもっと見て参考にさせていただきたい。
29. リハビリテーションワークショップ、リハビリの症例報告会
30. 在宅でフォローを行うときには力を要らない歩容を行うケースがある。よそ行きの歩容の話も出たが、それをできる訓練ができないか、それを補う装具ができないか、それを使いこなすにはどうするのか。実例とともに報告し、共通できる会に進んでいただきたいと思います。急性期から在宅まで行っている原寛美先生の講演があるとよいと思います。
31. 具体的なケース検討・発表報告があればいいなと思います。
32. ボツリヌス療法の痙縮に対する長期効果、施注タイミング。装具の長期的なチェック体制の必要性の提言。多職種の連携手段の構築のためにどのようなことをすべきか。
33. 地域連携
34. 私はセラピストなので、セラピストとしてはもう少しボトックスと運動療法の結びについて何かあれば参考になったと思います。
35. 具体的なリハビリテーションの内容について
36. ボツリヌス、装具の併用は効果的ですが、さらに効果を上げていくために運動療法は必須だと思うので、どうセラピストが介入すべきか、さらに詳しくお聞きできればと思います。シンポジウムに出てきましたが、ぜひ詳しく！
37. BTX を起点とした、治療プログラムの提案、その中での装具の役割の明確化
38. 北極中心の話がうれしいかな？
39. ボトックス施行後の訓練について（内容・期間・入院 or 在宅など）



Q4: 今後、研究会として皆様が求める形式はどのようなものですか



Q5: 開催間隔は年に何回程度が適当でしょうか



Q6: 開催地域に関してご希望があれば記載してください。

東北 1  
関東 1  
埼玉 1  
東京 1  
名古屋 2  
関西 6  
京都 5  
大阪 17  
梅田 1  
神戸 5  
広島 1  
福岡  
四国  
同会場 1  
特になし  
各地